

放射光共同利用実験審査委員会速報

放射光実験施設運営部門 君島堅一
北島義典

2022年9月7日(水)に、第56回放射光共同利用実験審査委員会(PF-PAC)全体会議が、オンライン会議形式で開催されました。小杉所長の挨拶に続いて、放射光実験施設報告やPF-PAC制度の改正など実験施設運営に関する重要事項の報告と協議が行われました。

報告事項(抜粋)

・放射光実験施設報告(船守実験施設長)

学術会議の「学術の中長期研究戦略」公募、2022年度の運転計画、新放射光源施設計画に向けた開発研究の概要、PF研究会「開発研究多機能ビームラインの建設と運用」予定、リモート会議専用スペースの整備の状況、高額旅費支給者への対応などについて報告がありました。

審議事項

1. 博士後期課程学生の申請について

G型課題の実験責任者となる資格を認める「博士後期課程学生」の範囲と、申請にあたって指導教員に求める「指導教員誓約書」について審議し、以下の通り決定しました。

意欲のある大学院生の主体的な研究を奨励するため、国内の大学の博士後期課程もしくは同等の課程に在籍するか、課題の有効期間の開始日に在籍予定の者で、放射光利用実験の経験を有する者に、G型課題への申請を認める。ただし、課題審査においては、大学院生の申請であることは考慮しない。課題有効期間中に、学位取得等により学籍を離れた場合には、通常の実験責任者となる。

なお、指導教員は、実験の実施にあたり、安全確保や損害賠償などに関して、実験責任者である学生との連帯責任を負うものとし、実験開始までに、指導教員本人から「指導教員誓約書」を提出することとする。

なお、T型(大学院生奨励)課題への申請については、本来の趣旨に立ち返り、KEKの外部に指導教員をもち、かつ、PFスタッフを受入教員とする特別共同利用研究員として長期滞在する者、もしくは長期滞在する予定の者に限る。

詳しいことは実験課題公募要項等でご確認下さい。

協議事項(抜粋)

1. レフェリーによる総合評価廃止の影響

レフェリーの評価において「総合評価」を廃止した影響

について、PF-PAC委員に対して行ったアンケート結果の集計を分析し、意見交換しました。次回の課題審査に向けて、レフェリー向けの説明文や課題審査システム内の用語を修正することになりました。

2. その他

開発研究多機能ビームラインの運用方法、申請書への過去の実績の記載方法、重要課題の発掘、旅費上限の設定、などについて話し合われました。

・次回PF-PAC全体会議は2023年1月の開催を予定しています。

第150回物質構造科学研究所運営会議議事次第

日時：2022年9月27日(火) 10:00～

開催方法：管理棟大会議室+ウェブ(Zoom)併用

【1】委員の交代について

【2】第147回、148回、149回議事要録の確認について

【3】審議

(1) 教員公募(物構研・研究機関講師・若干名)

(2) 2022年度後期ミュオン共同利用S型実験課題審査結果について

(3) 2022B期J-PARC/MLFにおける大学共同利用中性子実験課題(一般・産業利用)の審査結果について

(4) 2022B期J-PARC/MLFにおける大学共同利用ミュオン実験課題(一般)の審査結果について

(5) 教員の特定人事について(物構研・助教1名・PF高圧科学ビームライン群)

(6) 教員の特定人事について(物構研・助教1名・PFX線吸収分光ビームライン群)

(7) 教員人事(物構研21-13・特別助教もしくは助教・放射光)

【4】報告

(1) 所長報告

(2) 人事異動

(3) PF-PAC報告

(4) マルチプローブ共同利用実験課題及び発掘型共同利用について

【5】研究活動報告(資料配布のみ)

(1) 物質構造科学研究所報告

(2) 素粒子原子核研究所報告

(3) 加速器研究施設報告

(4) 共通基盤研究施設報告

物構研コロキウム

日時：2022年9月9日（金） 10:00～
（現地開催：4号館2階輪講室1&2及びZoom開催）

題名：47-1 Imaging ferroelastic domain dynamics with
nanoscale X-ray diffraction at the MAX IV synchrotron

講師：Dr. Jesper Wallentin (Lund Univ., Sweden)

題名：47-2 Visualizing Spin Currents with X-ray Microscopy

講師：Dr. Hendrik Ohldag (Lawrence Berkeley National Lab.,
USA)

日時：2022年10月3日（月） 15:00～（オンライン）

題名：#48 中性子ビーム利用の有効性を定量的に記述する
方法の模索

講師：清水裕彦氏（中性子客員教授 / 名古屋大学大学院
理学研究科）